

＼明日の授業に1ページのエッセンスを／

No.79

らいぶ つくりえいた～ LIVE創REATOR

2019年7月

CONTENTS

- 学校長、研究企画長ご挨拶
- 複式授業研究会を終えて
- 公開授業研究会を終えて
- 実践紹介
 - ・複式教育 「共通テーマで異学年の学びを深める」
 - ・外国語活動 「外国語を話すことの楽しさを探究」
 - ・音楽科 「音楽科における思考の誘発」
 - ・理科 「植物の体のつくり」
 - ・算数科 「表現力の育成」
 - ・国語科 「心と体が動く読書活動」
 - ・総合 『『ふつう』について考える出会い』
 - ・道徳科 「学校行事と関連させた道徳科の
カリキュラム・デザイン」
- 教育研究発表会、ICT活用授業研究会のご案内



学校長ご挨拶

新しく68人の1年生を迎え、附属小学校でも今年度の実践がスタートしました。この2年間、附属小学校の研究広報誌である本紙は、本校ホームページからのみの発信としておりましたが、みなさまのお手元にお届けするため、紙媒体での発行を再開することとしました。

地域とともに存在する附属学校として、実践研究をできるだけ多くのおみなさまにお届けしたく思っています。忌憚のないご意見などをいただくことができれば幸いです。



研究企画長ご挨拶

資質・能力育成をめざした研究主題「未来に生きて働く資質・能力の育成（1年次）～探究的な学びとカリキュラム・デザイン～」を掲げた昨年度、探究的な学びを中心に汎用的な資質・能力の育成に取り組みました。本年度は2年次として「探究力を育むカリキュラム・マネジメント」を研究副題に掲げました。子どもが身に付けた知識を活用・発揮できるような教科横断的な視点によるカリキュラムをデザインし、そのカリキュラムに基づく探究的な学びに取り組みます。それぞれの実践がご覧いただく先生方の参考となるよう、研究を進めてまいりたいと思います。





第19回

学び方から広がる複式教育

複式授業研究会御礼

第19回複式授業研究会開催に際し、当日は荒天にもかかわらず100名をこえる方々にご参会いただきありがとうございました。研究協議会では、皆様から貴重なご意見をいただき、研究テーマである「学び方から広がる複式教育～司会者・記録者・フォロワーで創る探究的な学び～」について、研究を深める機会となりましたことに厚く御礼申し上げます。今後も、皆様から頂いたご意見をもとに複式教育部一同、さらに研修を深めて参りたいと思います。



1年生は、みんなが遊ぶ場でのルールやマナーを考えました。2年生は、1年生に楽しんでもらうおもちゃの工夫を考えました。子どもたちの姿について「教師の指示なしに次の学習活動に移る様子・司会の出方など、学習規律の定着・異学年から学ぼうとする姿・少人数のよさを生かした関わり・線を引いて関連付けたり、強調したりする記録のスキル・短く話したり、短く書いたりする要約の力」などの評価をいただきました。このような「学び方」をさらに広げ、主体的な学びへとつなげたいと考えています。

1年「おもちゃ博覧会を楽しもう」
2年「おもちゃ博覧会を開こう！」



3年「かくれた数はいくつ」
4年「何倍でしょう」



「袋に入ったお菓子の数」「回転寿司で食べた皿の数」という、身近にある題材をもとに学習しました。

3年生は重さや手触りで個数を予想し、4年生は「2倍・3倍」という言葉を手がかりに予想しながら数を探りました。

子どもたちは、自分の考えた道筋をキズネール棒やテープ図などを使い、式や問題文とつなげながら話していました。

本実践により「この方向で実践を進めれば、きっと子どもたちはのびる」という確信をもちました。明日からの授業も子どもたちと一緒ににつくっていきたいと思います。

5年「わらくつの中の神様」
6年「やまなし」



どちらの学年も「この作品の主人公は誰だろう」を問いに学びました。5年生では、気持ちに大きな変化がある登場人物が主人公であることに目を向けさせたところ、『マサエ』がこの物語の主人公ではないかと考えました。6年生では、『私』と読んでいた子もいましたが、『かに』が主人公であると結論づけしていました。

授業の終末に異学年で意見を交流しました。5・6年生の読みにズレがあり、学習したことを活用して話す子どもの姿が見られました。

公開授業研究会御礼

未来に生きて働く資質・能力の育成（2年次）

～探究力を育むカリキュラム・マネジメント～

今年で4回目を数える公開授業研究会には、これまでで最も多い150余人を越える方々にご参会いただきました。ありがとうございました。

今回提案させていただいた7本の授業は、いかがでしたでしょうか。探究力を育む探究的な学びの一端を公開させていただいたつもりではございますが、まだまだ研究途上であることが課題としてはっきり見えた研究会となりました。研究協議会では、具体的な代案を交えてご意見いただいたことは、今後の研究を進めていく上で大変貴重なものとなりました。

11月3日（日）の教育研究発表会では、研究の深まりを感じていただけるよう、今後も研究推進に取り組んでまいります。

「乾電池を2個にする」を扱い、つなぎ方を検証する時間でした。予想の回路図をもとに、何度も試す中でどうつなげばよいかを探究しました。



4年理科・久保文人

まちの具体を見てきた子どもたちが、岩出市の子もたちに紹介するガイドマップの表紙を考えることをとおして、和歌山市を俯瞰的に捉え直す時間でした。



3年社会・中山和幸

本研究会の
指導案集は
こちら



5年体育・則藤一起

学習カードに「助走は跳ぶ時にふんばる力をためるものなので、跳びにくい時に変えればよい」とあり、学びの本質に気付く子どもの感想に、学ぶ力の素晴らしさを感じさせられました。

お父さんがゆみ子を思う気持ちを知るため、保護者に自分が1～2才の頃の様子を聞いた上で、登場人物（お父さん）の思いを考えることができました。



4年国語・川端大奨

登場人物になりきり、素直な思いを発言したり、自分の体験と関連させて話そうとしたりする姿が見られました。友達の発言を聞き、違うときは「ちょっと違う」、同じときは拍手するなどの反応を見せ、自分と友達の考えや感じ方を比べながら考える姿も見られました。



1年道徳・田中千映

アルミホイルで包んだ形を組み合わせることで、さらなる新しい形の発見や、自分なりに「いいな」と思える形をめざし、試行錯誤する子どもたちの姿を見ることができました。



5年図工・西原有香莉

引き算「ちがいはいくつ」の単元で、おにぎりとお茶の数の違いについて考えました。何気なく式に書いて答えを求めたのではなく、自分が描いた図の中で「ちがい」はどこかを考えることができました。



1年算数・松本都望

らいぶすくえあ #1



複式・生活科

1・2年F組担任

中西 大

共通テーマで異学年の学びを深める ～「笑顔」でつなぐアイデアや工夫～

複式指導の課題として、異学年がどのような交流をしながら学び合うか、また少人数で学びを深めるにはどうすればよいかなどがよく挙げられます。

そこで、異学年が異なる学習内容であっても、共通のテーマをもたせたカリキュラム・デザインを行うと、自然な形で交流しながら学び合うと考え実践しました。

本実践では、生活科を中心にして取り組み、「笑顔」を共通テーマに設定しました。

- 1年生：家族を笑顔にするために取り組み、改善しながら計画する。
- 2年生：働く人の努力を知りながら、お客さんを笑顔にするための工夫を探る。

「笑顔」は、低学年の子どもでもイメージしやすく、2年生は経験を生かして1年生にアドバイスできると考えました。また、1年生も2年生と一緒に見学に出かけ、お客さんを笑顔にする工夫を探ることで家族を笑顔にするためのヒントにできると考えました。

同時に、授業の導入を一緒に行うことで各学年の学習活動へと広げ、複式学級での直接指導の時間を有効活用できる効果についても期待しました。

幼児教育

お店ごっこ 月見団子作り ままごと 父の日・母の日
給食当番 電車で遠足 消防車かやって来た

共通テーマ『笑顔』

1年生	2年生
家族を笑顔にするお手伝い	お客さんを笑顔にする仕事

国語科…笑顔になる時カード・質問用紙作成・見学メモ整理

図画工作科…笑顔を描こう・新しいアイデアを伝えよう

道徳科…公共交通機関を利用する時のルールやマナー
見学やインタビューのマナー

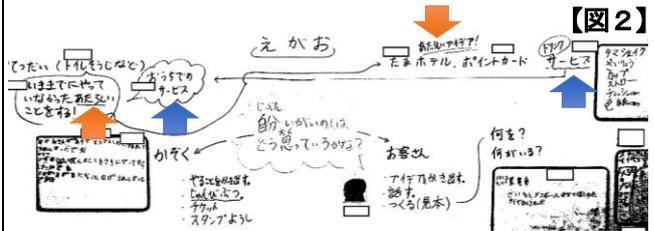
特別活動…みんなで校外学習・フローチャートで考えよう

休み時間…鉄道のビデオ鑑賞

【図1】

幼児教育や他教科との関連も重視し、図1のようにカリキュラム面での関連付けを行いました。共通して学ぶ内容を同時期に配置し、生活科における学びを効果的に盛り上げようと試みました。幼児教育の内容に

については、一般的に行われている活動の例です。



授業では、図2のような板書が残りました。笑顔にしたいという思いばかり先行していたので、相手はどう思うだろうかと、立場を変えて考えてみようという発問した場面です。

2年生の発言にあった「お客さんへのドリンクサービス」が、1年生の家族へのサービスへとつながりました。(青矢印) 1年生は、意識を向けていたお手伝いから、何かサービスできることはないかと考えるようになりました。さらに1年生は、「新しいことをする」と発言しました。(オレンジ矢印) 同時にこの発言が2年生にも影響し、全く新しいアイデアでお客さんを笑顔にしようと、積極的にアイデアを出し始めました。

これらのことから、共通テーマがあることで情報を共有しやすくなり、異学年からの刺激によって活動意欲が向上するようになったと感じています。

この実践は、和歌山大学の船越勝先生に、「家族という私的領域と、街・鉄道という公的領域との違いを超えて、対人関係におけるサービスに求められる“おもてなし”の精神とホスピタリティの気付きと発見につながる」「共通性を基盤にしなが異内容を学習しているからこそ、異学年から学びたいという学習欲求が生まれてくる」と評価をいただきました。

実際、関係のないことをしていると無関心ですが、関わられるきっかけがあることで、子どもたちにもいい意味での競争心が生まれているように感じました。

みなさんも、「共通テーマ」で違う内容の学習を展開し、子どもの学習欲求を高めてみてはいかがでしょうか。学習活動の詳細は、本校ホームページに掲載しています。

<http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/kenkyu/hukushiki/>



附属人

#複式 異学年 共通テーマ

本校で複式学級を担当して6年目となりました。複式大好きです！複式の子どもの学びや成長には、大変興味深いおもしろさや楽しさがあります。また、複式での学び方は単式にも通ずる部分が多くあります。

今年度は、そんな「学び方」に注目して、スキルを身につけることで主体的に学ぶ子どもを育てようという研究をすすめています。



dai0314@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ #2



外国語活動

4年B組担任

中岡 正年



外国語を話すことの楽しさを探究 ～アウトプットの場の設定～

外国語活動と総合的な学習を関連させて、「Welcome to Wakayama! This is for you!」という単元を構成しました。

世界遺産である「熊野古道」には、多くの外国人観光客が来ています。彼らとコミュニケーションをとる一つの方法として、和歌山に来てくれてありがとうの思いを「ウェルカムカード」に込め、外国人観光客に渡すこととして単元を構成しました。

このようにコミュニケーションをとる相手・場面を明確にすることで、外国語で思いを伝える必然性が生まれ、主体的に学ぶ一つのきっかけになると想定しました。さらに、カード作りの際にも自分の思いを伝えることで自分の作成したいカードができあがるよう活動の展開を工夫し、楽しみながら英単語や慣用句などコミュニケーションに必要な言葉を身につけられるように計画しました。まず、第1時に外国人観光客にウェルカムカードを送ることを確認しました。気持ちを伝えるカードにはどのようなものがあるのかを知り、(日本や世界のカード等)第2時に形を表す言葉や物を表す言葉について知ることになりました。(図1)

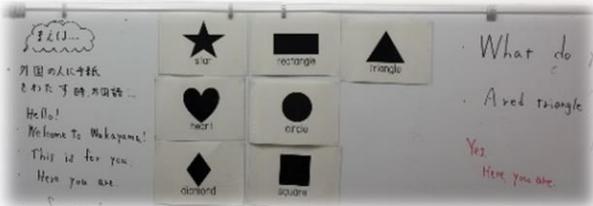


図1：形や物を表す言葉

次に、第3時としてウェルカムカードを作成するためにカードの材料を集めることを設定しました。この際、形と色を組み合わせ、「What color do you like?」

「Do you have a red star?」などの言葉を使う場面を設定しました。(図2)



図2：言葉を使う場面

そして、第4時にウェルカムカードを作成し、(図3)友達どうしでカードを紹介し、その感想を伝えあいました。(図4)



図3：カード

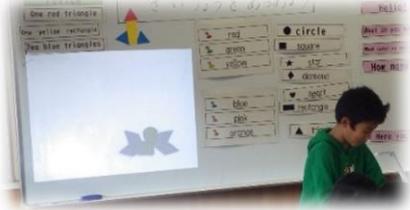


図4：感想を伝える

実践後、子どもたちへのアンケートや感想文から、自分の作成したウェルカムカードを渡すことが楽しかったこと(図5)、授業の中で話した言葉を使って外国の方と実際に話せたなどと感じていることがわかりました。インプットしたことをアウトプットできた達成感や日常的に使わない英語によって外国の方と交流できたことで、これからは英語をもっと勉強してみたいと感じたなど、積極的に学習を進めていきたいと考えている子どもも多くいることがわかりました。今後も子どもたちが、コミュニケーションをとるための必然性や場の設定を行っていきたくと考えています。



図5：カードを渡す場面

また、第3時や第4時のように、教材や情報の提示の仕方によって、外国語を活用する各場面で自分の伝えたい、答えたいという思いをもたせることもできました。今後もさらに工夫し、子どもたちが日常的には使わない外国語を楽しみながら身につけていくことができるようにしたいと考えています。

附属人

#外国語活動 楽しむ

子どもたちが楽しみながら、外国語や様々な国の文化に触れて、新しいことを知ることによって、彼らの世界が広がっていくような授業を考えていきます。

今後、子どもたちにより多くの人と出会い、コミュニケーションを楽しんでほしいと願っています。その際に、外国語活動がきっと役立つと考えています。



masanaka@wakayama-u.ac.jp



らいぶすくえあ #3



音楽科

音楽専科（4年）

北川 真里菜

音楽科における思考の誘発

～常時活動と学びをつなげることで～

低・中学年の音楽の授業では、毎回5分程度、拍感やリズム感を養う活動、音楽に合わせて体を動かす活動など、楽しみながら基礎的な音楽の力を養い、本時の学びへとつなげる「常時活動」を取り入れています。

本稿では、常時活動と『いいことありそう』を教材とした学習を関連付けた4年生での実践を紹介します。本教材は ♪ のリズムの多用が特徴的で、わくわくと弾む気持ちが表現された魅力ある教材です。

学習前に体を動かしながら音楽を聴く常時活動を行い、体全体で ♪ の特徴や面白さを感じ取っておくことで、本教材の音楽の構造と曲想との関わり合いに子どもたちが自ら気付けるのではないかと考えました。

●音楽に合わせて体を動かしてみよう

常時活動において、意図的に ♪ のリズムを多用したAの部分と、二分音符を中心としたBの部分で構成したA-B-A形式の即興曲（図1）を演奏しました。

Aを聴いて、子どもたちはピョンピョンつと体を弾ませ、スキップを始めます。

しかし、Bの部分が始まると、子どもたちの動きが一斉に変わりました。先ほどとは対照的に、体を沈めてゆったりと重々しい歩き方になりました。



図1：実際に演奏した楽譜

そこで活動を止め、問いかけます。

「ねえ、みんな、なんで急に動きが変わったの？」

動きが変わったことは自覚していても、「なぜかわからない」「なんでかな」と戸惑う子や、「だって、音楽が変わったよ」と、動きが変わった理由を音楽の要素から探そうとする子どもの姿が見られました。

無意識かもしれない動きの変化の理由を問うことで、自らの動きを省みることができ、子どもたちの思考が働き出します。

動きの変化の理

	A	B
音の高さ	高い	ひくい
強弱	弱い	強い
リズム	ひょん、タカタカ	ゆったり
かんじ	楽しい、ピクニック	こわい、かなしい、ゴジラ

図2：子どもから出たAとBの違い

由として、音高や強弱、リズムや曲想など音楽の様々な要素についての発言が出され、要素ごとに分類して板書します（図2）。

その中でも、多くの子どもたちが着目していた「ひょん」「タカタカ」と表現しているものが



図3：♪ の効果

♪ のリズムであることを伝えると、「タッタのリズムを使うと跳ねる感じになる」、「スキップみたいで楽しくなる」など、♪ の効果についても話し始めました（図3）。

●この曲にも…タッタ発見！

ここで既習『いいことありそう』の学習に入ると、楽譜の中に ♪ がたくさん隠れていることに気づき、「先生、あそこにタッタがさんがいる！」と、子どもたちは勢いよく挙手し、発表します。



図4：楽譜で見つけた ♪ を丸で囲む

その後、♪ のリズムに合わせて手拍子したり、体全体で感じ取ったりしながら歌うと、「この曲なんかウキウキするなって思ったけど、タッタがいっぱいいたからなんやな。」と、曲想との関わり合いについての発言も出てきました。

●音の高さの移り変わりにも気付けた！

同教材曲をつかって、前時では、音の高さを工夫した音楽を聴いて体を動かす常時活動から学びへとつなげることで、音高と曲想との関わりについての気づきも引き出すことができました。

このように、常時活動と学びの相乗効果で更に思考を深め、楽譜に立ち返りながら、音楽の構造と曲想との関わり合いを感じ取って表現できる力を高めていきたいと考えています。

附属人

常時活動 楽曲分析

音楽専科として、4～6年生と複式全学級の音楽科を担当しています。楽曲分析を核とした研究をすすめています。



marinak@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ#4



理科

6年A組担任

岩崎 仁

植物の体のつくり ～簡単に水の通り道を観察～

「植物の体のつくり」では、植物の水の通り道を確認する学習活動において、グループに一つずつの苗を準備したいものです。しかし、4月にホウセンカなどの種を蒔き忘れてしまったり、苗をグループ分確保できなかったり、染色が不十分なために導管が観察しにくかったりしたことはありませんか。

今回は、比較的簡単に手に入りやすいセロリと市販の染色液を用いて、維管束の観察を行っていく方法を紹介します。

まず、子どもたちに萎れたセロリを見せると、口々に「萎れたセロリが生き生きするためにはどうすればいいか」を話し合います。

- 「水をあげればいいんだよ。」
- 「根から吸収して茎を通して、葉に行くね。」
- 「葉に水がたまるのかなあ。」
- 「最終的に蒸発するんだ。」
- 「え、でもどこから蒸発するの…。」

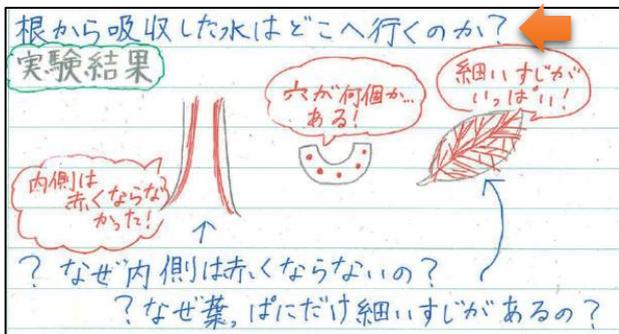


図1：ノート「水はどこへ行くのか？」

子どもたちの対話を通し、問題が「根から吸収された水はどこへ行くのか」と共有化されます。(図1矢印) 子どもたちは、仮説の段階でヒトの体と比べながら植物の水の通り道を考えていきます。

- 「ヒトでいう血管みたいにさ、植物にも水の通り道があって根→茎→葉と行き渡るんだよ。」
- 「葉に網の目の模様があるもんね。」
- 「でもさ、ヒトやったらその…水分を出すでしょ?」
- 「植物も水を出すのかなあ。」

ここで教師が出て子どもたちの考えを整理します。「君たちが“?”を感じているのは、植物に吸収された水はどこを通るのか、吸収された水は最終ど

こへ行くのかの二つだね。この二つを確かめるにはどうすればいい?」

子どもたちは…

- 「水の通り道は色水をつけるとすぐにわかるぞ。」
- 「葉に口みたいなものがあるんじゃない。」
- 「顕微鏡で見てみたいな。」
- 「袋を葉にかぶせたらどうかな。」

そして、市販の染色液を用い、セロリの維管束を染色しました。

(図2)

子どもたちは、目を輝かせて鮮やかに色づいたセロリを観察します。このように、少しの工夫で子ども



図2：染色の様子

ちが植物の水の通り道に対しての科学概念を定着させます。また、次への疑問「養分はどのように運ばれるのか」など次の問題(図3)へとつなげることができました。

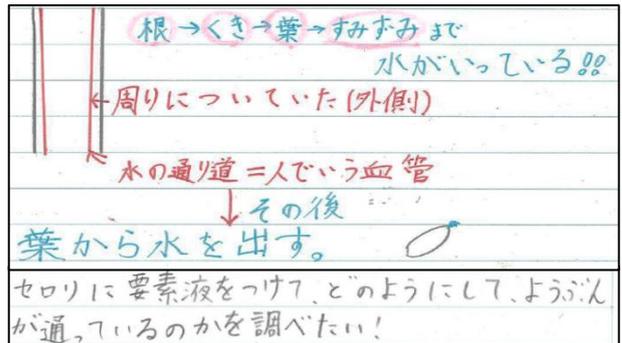


図3：ノート「養分はどのように運ばれるのか」

また、単子葉植物の維管束を観察する場合は、アスパラを利用することができます。同じく市販の染色液で染色することで観察しやすくなります。



図4：染色したアスパラ

附属人

#協働 対話

子どもが創る理科学習を研究しています。楽しく学び合いましょう！11月3日の教育研究発表会に、ぜひお越しください。



wky11631@wakayama-u.ac.jp



表現力の育成

～思考をつなぐ共通言語～

「思考をつなぐ共通言語」

子どもたちは、考えたことを互いに表現し、伝え合いながら理解を深めます。この時、数学的思考力や表現力は、合理的・論理的に考えを進めたり、知的なコミュニケーションを図ったりするために重要な役割を果たします。

しかし、低学年期の子どもも多くは、伝え合うために必要な言語や手段をまだ充分にはもち合わせていません。実際に、個人思考の場面では抵抗なく解を求めた子どもは、話し合いの場面になると言葉に詰まる姿がよく見られます。子どもたちが自分の考えや思いを充分に表現し合い学びを深めていくためには、互いに理解できる共通言語（図、算数的用語等）を獲得させていかなければなりません。

子どもたちは、もともと柔軟な思考力をもっています。だからといって、課題文を突然提示するだけでは、場面や事象を捉えさせ、思考を促すことは難しいものです。

そこで、課題把握や思考過程の場面で具体物の操作や絵図にかき表す活動を取り入れ、日常の数学的事象と課題場面をつなげることが重要となります。視覚的に捉えられる具体物や絵図は、課題場面をつかませることにおいて有効な道具です。また、文字言語を、絵図に置き換えたり具体物に置き換えたりすることで、子ども自身が数を「量」を伴ったものとして捉え、数学的事象をつかむことができます。

学び合いの場面では、それらの具体物や絵図を用いて子どもたちが思考過程を再現し、視覚化することで考えを共有したり、実際に手に触れ操作したりすることで思考を確かなものにできます。この具体物や絵図といった道具に十分に触れて体験することで、初めて意味理解が図られると考えます。



「複式における表現力」

複式教育では、子ども一人一人が自分の考えをもち、主体的に学ぶ姿が重要となります。間接指導時に、子どもたちだけで問いに向かい課題を追求していかなければならないからです。

様々な個性をもつ子どもたちが、互いに思考をつなぎ主体的に学びを深めていくためには、課題を的確に捉え、考えを表現することがより必要となります。

友達に自分の考えを伝えるためには、その内容を分かりやすく整理しようとしています。また、分からないことを相手に伝えるときも疑問点を整理します。つまり自分を表現することで、自己の思考が更新され再構築されると考えています。

「学び合いを支える学級づくり」

子どもたちが互いに相手意識をもち、学び合う姿を実現するためには、誰もが自己肯定感をもち、自分を表現できる学級風土が重要です。学級における学び合いは、常に対等なものです。子どもたちには、それぞれ得意なこと不得意なことがあります。それは、優劣ではなくそれぞれのもつ個性です。授業中、「教える」「教えてもらう」という姿がよく見られます。それは、自然な光景で、とても大切なことです。「分からないから聞く」「聞いてくれるから答えられる」このような関係があるからこそ、子どもたちは互いに考えを深め合い、学び合うことができます。

一人一人が課題意識や相手意識をもち、個性や考えを認め合いながら自分の考えと相手の考えをつないでいくことで、安心して自己表現できる学級風土を創りたいと考えています。



附属人

#複式 共通言語 学び合い

複式、少人数学級での算数科指導についての悩みや授業づくりについて気軽に交流しましょう。



shige@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ #7

総合的な学習の時間



「CHANGE」

5年A組担任

矢出 大介

「ふつう」について考える出会い
～カリキュラム・デザインを意識して～

CHANGE での出会い

今年度のCHANGEでは、野菜を育て、ジャムなどに加工して販売し、その売り上げで東南アジアに井戸を作ろうと考えています。

このような見通しをもって活動していく活動の中で、様々な職業の人と出会うことを考えています。有機野菜農家の方、アジア教育友好協会の方(図1)、パン職人、環境教育アドバイザーなど、CHANGEでの学びを深めたり、広げたりするきっかけとなる出会いを大切にしたいと考えています。



図1：アジア教育友好協会の方による出前授業

子どもたちが、自分たちだけで解決できない課題が出てきた時に会えるようにカリキュラムを考えています。そうすることで、出会うことの価値を実感し、もっと出会いたいと考えるようになります。

また、自分たちが目標をもって取り組んでいく中で出会うことで、その大人に憧れをもつことが多くあります。自己の生き方を考えるきっかけ、キャリア形成を促すきっかけになることもあるはずです。

この取り組みでは、子どもたちが、東南アジアの人たちとのつながりを調べていくことで、今まで自分が「ふつう」だと思っていた日本の生活が、世界の「ふつう」ではないのかもしれないと感じるでしょう。そこで、今の自分たちにできることを考えて行動してほしいと思います。自分たちが、がんばったことで感謝してくれる人に出会うことで、自分の生き方を考えるきっかけになるだろうと考えています。

特別活動での出会い

特別活動では、林業従事者(図2)、捕鯨漁師、陶芸家など、働く意義について考えを揺さぶられる人たちと出会います。自分たちの学びと働くことをつないで考えることができるよう、キャリア教育にも関連付けたカリキュラム・デザインしていきます。出会うことで、日ごろの学びの意欲を高めたり、大人になることを楽しみにしたりできればいいと思います。



図2：林業従事者との出会い

学びを映像にまとめて発信

多くの人と出会い、自分たちが学んだことは何かを話し合いながら5分間の映像にまとめる活動(図3)をします。その中で、自分たちの考えの広がりを実感しながら、これまでの「ふつう」の概念を更新し、自己の生き方を変えていくことだと考えています。

この映像制作においても、劇団員や映画監督との出会いを考えています。



図3：映像制作をする子どもたち

附属人

#キャリア 出会い

「ひと・もの・こと」との出会いを大切にしたい総合的な学習の時間(本校ではCHANGE)の在り方を研究しています。最近、企業や地域と学校をつなげるキャリア教育に興味をもっています。学校や教育だけで子どもを育てるのではなく、多くの大人と一緒に育てていくためのコーディネートができる教師をめざしています。



happydai@wakayama-u.ac.jp

らいぶすくえあ #8



道徳科



3年B組担任

系我 直人

学校行事と関連させた 道徳科のカリキュラム・デザイン

道徳科の授業で学んだことを実践の場で生かし、道徳的価値を深めてほしいと考え、4年生で実践した取り組みを紹介します。

単元『高野山合宿を成功させよう』

本校の4年生では、学校行事として高野山合宿を行っています。高野山合宿では、集団行動の規律や過ごし方を大切にしたいと考え、単元計画（図1）を作成しました。

子どもたちは、学年で高野山合宿に向けての心構えを話し合い、「右側歩行・あいさつ・スリッパ並べ」を重点に取り組みました。そして、『高野山合宿を成功させよう』というテーマと関連させ、道徳科の「規則の尊重」「礼儀」の内容項目の学習を行いました。それにより、より実践的に道徳的価値への理解が深められると考えたからです。

単元計画（道徳3時間+α時間）

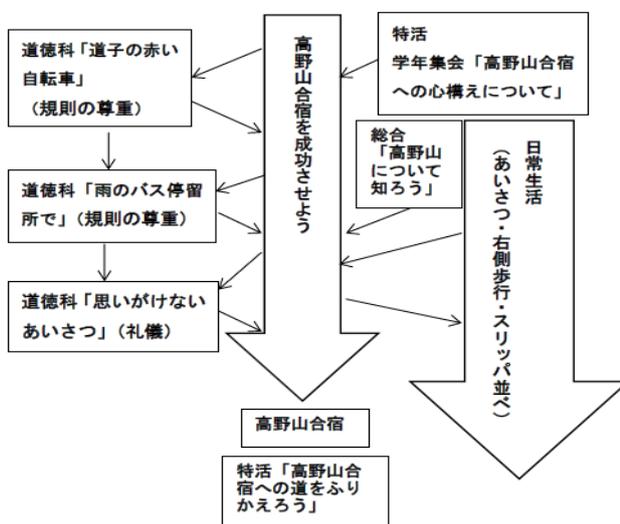


図1：単元計画



道徳科「思いがけないあいさつ」(礼儀)より

◎授業での子どもの発言（図2）

C1: 誰かがなくしたものを一緒に探してあげて見つけると「ありがとう」って言ってくれる。そうすると、僕も嬉しくなる。

【自己の経験とのつながり】

C2: もうすぐ高野山合宿に行くけど、その時に気持ちのいい挨拶をしてくれる子になって思ってもらいたい。

【学校行事とのつながり】



図2：発言をつなぐ子どもたち

授業では、自己の経験や学校行事とつなげて発言をし、自分事として探究している姿が見られました。

他教科・他領域、日常生活での体験を道徳科に重ね合わせて考えたり、道徳科で考えたことを他教科・他領域、日常生活で実践したりすることで、自己のよりよい生き方について探究する姿につながります。

道徳科で考えたことが、生活の中で生かされるよう、他教科・他領域、日常生活などと道徳科を関連させながらカリキュラム・デザインをしてはいかがでしょうか。

附属人

道徳科 学校行事 カリキュラム

「聴き合う・話し合う・高め合う」を大切にし、自分なりのよりよい生き方について考えを深める子どもたちの姿をめざしています。



naohito7@wakayama-u.ac.jp



2019 教育研究発表会

2019年11月3日(日)

未来に生きて働く資質・能力の育成 (2年次)

～探究力を育むカリキュラム・マネジメント～



- ◇22本の授業を公開!
- ◇カリキュラム・マネジメントを意識した単元構成
- ◇探究的な学びと活用・発揮ができる授業づくり

全体
講師

國學院大學教授

田村 学 先生

ICT活用授業研究会

2020年1月25日(土)

プログラミング的思考・情報活用能力の育成・教科等におけるICT活用

全体
講師



和歌山大学教職大学院教授
豊田 充崇 先生

公開授業
プログラミング体験ブース
対談 など予定!

FROM EDITORS

新しい節目を迎えた『LIVE 創 REATOR』には、「生き生きと本物を創り出すひと」という意味が込められています。私たちが創り出す本校の取り組みをご紹介します。

今年度は、9月と12月にも発行を予定しています。本校の行事・授業・提案・取り組みにつきましては、ホームページでの発信も充実しております。日々の実践を考える情報源としていただければ幸いです。ぜひ、ホームページも合わせてご覧ください。

和歌山大学教育学部附属小学校
☎640-8137 和歌山市吹上 1-4-1
TEL 073-422-6105
FAX 073-436-6470
E-mail fuzoku@ml.wakayama-u.ac.jp
URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>



Mail



HP



研究広報部員：中西 中岡 系我 静川 中村 川端
デザイン&編集：D@iz Art Image

研究広報部